

文久四年一月十六日より文久四年一月廿日まで

P8311074 right

十六日午 陰午下稍(やや)晴

朝第八時出立、夕第四時帰着、尤駕を用ふ痔痛による、昨日細谷方へ、秀八母留守居として来着、羊糕一筥持参す、右謝□魚数尾遣せし旨、箱館阪田小□より文通有し、魚二方贈越旨
正覚来り

宿岡に養子相談粗、整模様の旨咄し有し由、藤山(馬)より年賀状届く

十七日未 雪

出 殿、金港亜ミニストル談判の模様建白し書類は備前守殿へ御直に上る、牛姑来り箱館表届け物式書托し候旨、町田(耕)より伊藤(幸)へ届け品(フランケット一枚)達し遣す、菊池(豫)より新川酒一樽紹介

し廻し呉の旨、岡本登作昨日請状申付、士分に取立刀壱振を遣す

十八日申 陰午下晴

宅調、山下(金助)紹介にて御先手同心坂戸貞之助初て来り面す(下等)、駒井大□方へ
フランケット

P8311074 left

を受取に遣す式枚分差越す、太郎年賀として内山(魚大ニ尾)、桑野(酒三升)へ年賀品を携へ行けり、医道玄来り、大木(金)志願筋の儀に付、云々申聞る、且道中用達として丹丸薬五種を殘贈せらる、柳亭病を訪ひ割烹品一重を遣す、須崎へも年賀章家内より遣す

十九日酉 晴

山本(長)来る、出 殿、フランケット代六拾三匁大学へ渡す、長蔵来り、伴金蔵差越□度段頼聞旨、寺山来り、今般の志願難叶趣意有し段、咄し聞る且柑揃一□を贈るへき約あり

廿日戌 陰午下微雨

島村真吉初て、内山(孝)来り面す、永持来る、一杯を勧む、出 殿、□に□拝借金式拾五両

三井へ預け 並官金四拾両書し方とも元々彦太郎へ托す、御合力米旅御扶持方手形式枚札差へ為持遣す、寺山へ新刀代三匁一方為持遣し、且此の約□柑を受取る、山本(次郎)年賀に来る、

鶏卵

*1:

()内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。